

インドネシア活動報告⑨

株式会社マジオネット

JICA 青年海外協力隊 2016 年度 2 次隊

山口 麗子

【今月(11/15~12/15)の活動】

- ・学校巡回(計 8 回) ・ごみ銀行訪問(計 3 回) ・HARI MENANAM POHON INDONESIA
- ・KABUPATEN KERAWAN スタディツアー ・JICA 安全対策講習会 ・日本語教室開催
- ・環境局内コンポストの作成、分別用ごみ箱の設置

◎学校巡回

今月は、11/20 に後輩の環境隊員が任地を訪ねてきたため学校巡回に同行してもらい、共同で活動を行った。授業途中から生徒の半分が他のクラスの生徒と入れ変わるというイレギュラーなパターンであったが、隊員の助けを借りて無事に終えることができた。また 12 月は初旬が学校のテスト期間、下旬から長期休暇期間となっているため、通常より巡回回数が少なくなっている。この期間を来年度の授業プログラムの準備に充てていく。



現地語を使って隊員が自己紹介をしている様子。

◎HARI MENANAM POHON INDONESIA



11/28 はインドネシア植林の日ということで、配属先主催でササク山での植林イベントが行われた。参加者は行政関係者のみ、県知事・環境局局長の話と知事が植林をした後は自由解散、参加者へは植林の案内もしないというあまりにも内容の薄いイベントであった。ただ、今回は行政関係者ではないものの、普段協力をもたらしているごみ銀行のスタッフを特別に招待することができ、配属先の関係者や局長に紹介することができた。これ

により、早速今後のイベントで協働していこうかという話も出たので、全く無駄なイベントではなかったと考える。

◎ケナワン県環境局から視察団訪問

11/30 に ADIWIYATA の視察ということで西ジャワ州のケナワン県環境局から 30 名ほどの職員が配属先を訪問してきた。ADIWIYATA とはインドネシア全土で毎年開催されている優れている環境学校を表彰する制度で、自身の学校巡回活動もこの ADIWIYATA の推進の為に行われてい

る。その為、自身もこの会議に参加し、どのような活動をしているのかケナワン県の職員へ説明を行った。ケナワン県は日系企業の工場が多くある土地のようで、日本へ研修に行ったことがある人なども数名いた。今後も関わる機会を持てるよう、引き続き連絡を取っていく。

◎日本語教室開催

12/14、ごみ銀行マンディリセジャトラを運営している方の家にて日本語教室を開催した。これまでに個人で日本語を子どもたちに教えることはあったが、今回はごみ銀行スタッフより依頼を受け、子どもに限らず、ごみ銀行が所在している地域住民を募って日本語を教えることとなった。時間は1時間半程度、基本的な挨拶と自己紹介、数字、家族の名称を教えた。今後も毎週木曜日夕方に開催していくこととなったので、学びに来てくれている人々が少しでも日本語を話せるようになるよう今後もサポートしていきたいと考えている。



ローマ字表を教材にして50音を教える様子。

◎環境局内コンポスト、分別用ごみ箱の設置

これまで何度も学校に指導へ行っているものの、配属先である環境局はごみの分別すらもしていなかった。どうにかしたいと思っていたので、同僚に相談したところ分別とコンポスト作成を行うこととなった。予算がないということで意見がぶつかることもあったが、分別用ごみ箱は段ボールを使用し、コンポストは出来る限り費用をかけずに制作した。



分別は生ごみ、ペットボトル容器、その他で行っている。生ごみは毎日コンポストに投入し、ペットボトル容器はペムルンと呼ばれる資源ごみを売って生計を立てている人に渡すようにしている。自身がいなくなっても続けられるよう、これから環境局の職員への意識付けも行っていきたいと考えている。



【日常生活について～引っ越し～】

12/1、晴れて新居となるコス(1人暮らし用のアパート)に引っ越すことができた。エアコン、洗濯機、冷蔵庫、キッチンなどの設備がないので、不便もあるが、それよりもこれまでのホームステイでのストレスから解放されたことの方が大きく、快適に過ごせている。また、コスは元ホームステイ先から100メートルほどしか離れていない場所であるので、たまに元ホームステイ先にも顔を出し、交流を続けている。